

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第106号

令和2年2月11日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

正成の父は、正遠・正康・正澄、いずれも断定しがたい
正行の兄弟6人説も。正行・正時・正儀の3人が定説
＝ 正行の母、南江正忠妹説と藤房妹説 ＝

● 楠氏系図、16種類現存 ●

1月例会は、楠正行の出自について検討した。

井之元春義著「楠木氏三代」によると、楠氏系図と称される系図が実に16種類あるという。

楠氏系図に確たる史料がないことから、楠氏に関する各種著作物は、すべて断定を避け、このような系図が存在すると紹介するにとどまり、正行の祖父がだれで、父・正成の兄弟は何人で、正行の兄弟姉妹は何人であったか、定かではない。

しかし、この間、定説として、ほぼ共通認識と認められる系譜は以下のとおりである。

- *父とその兄弟 正成、正季
- *正行の兄弟 正行、正時、正儀

● 正行の祖父は正遠、正康、正澄か ●

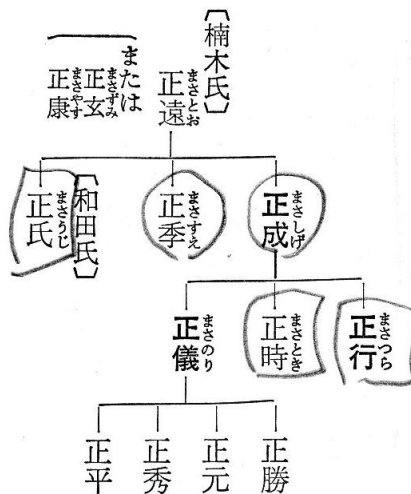
【正行の祖父について】

正行の祖父、即ち正成の父については、尊卑文脈系図に基づく正遠説、群書類従系図に基づく正康説、そして系図纂要系図に基づく正澄説がある。

藤田精一は、「楠氏研究」の中で、尊卑文脈系図は、敏達天皇、橘諸兄、好古（12代：天禄年間970～973）、正遠、正成とするが、好古から正遠まで、6代300年は考えられず、この系図は明らかに間違っていると、正遠説を廃している。

では、正康説、正澄説のいずれが正しいのか、触れていない。

しかし、観世系図（上島家文書）に登場する「橋入道正遠娘」、いわゆる観阿弥の母とされる人物の存在がある。この観世系図に観阿弥の母が、橋正遠の娘とあることから、正成と兄弟であるとの立場にたつて、観阿弥は正成の甥、即ち楠氏の末裔という説がある。明らかに、正成の父、正遠説に立つものである。



楠木氏略譜

● 正成の兄弟は？ ●

【正成とその兄弟姉妹について】

正成は、どの系図にもはっきり確認できるが、正成の兄弟については諸説ある。

尊卑文脈系図・群書類従系図に正季の名は見当たらず弟は正氏のみで、系図纂要系図には弟に正氏、正季、恵秀の3人の名が出てくる。

正成、正季の兄弟は定説になっているにもかかわらず、系図によって正季がみられない。また、正氏、正季を、同じ和田七郎とする別々の系図もある。

扇谷が小説「楠正行」執筆に当たり、人物設定で最も悩んだことが、正行の従兄弟の行忠（≒高家とも）、賢秀兄弟は、果たして正季の子か、正氏の子かということであった。

史料から確認が得られず、結果、正季と正氏を同一人物とみなし、小説では正季の子とした。

● 正行の母、久子説と滋子説 ●

【正行の母について】

正行の母についても、定説は久子になっているが、南江正忠妹説と藤原藤房妹説の2説がある。

観心寺の過去帳に久子とあり、甘南備の豪族、南江備前

正忠の妹で、富田林市大字甘南備矢佐利に誕生し、元享3年1323、20歳で正成に嫁いだとするのが南江正忠説である。

一方、後醍醐天皇の側近、藤原(万里小路)藤房が勤王の士を募り、畿内に勢力を持っていた正成を取り込むために妹滋子を養女に出し、久子として降嫁させたというのが藤原藤房妹説である。

楠妣庵(富田林市)は藤房創建との伝承が残っており、この説の根拠の一つとなっている。

● 正行、正時、正義3兄弟が定説 ●

【正行の兄弟について】

正行の兄弟については、正行、正時、正義の3兄弟が定説である。

しかし、正時を正之と同一人物とする説や、正時、正之兄弟説もあり、正之という名が出てくる。

また、正義を正義とする説(尊卑文脈系)もあり、源秀(賢秀と同一人物か)も正行の兄弟とする説(系図纂要系)もある。

更に、楠妣庵観音寺略記には、正行の兄弟は、正行、正時、正義、正秀、正平、朝成の6人と記されている。しかし、正義の子に、正勝、正元、正秀、正平はほぼ定説となっており、6人兄弟説の正秀、正平は正義の子どもの混同と思われる。また、朝成はほかのどこにも見られない。

● 今に生きる正行、正義の末裔 ●

【正行の末裔について】

正行の末裔に、異腹の子、教正が知られる。

正行には、野瀬の内藤満行の娘である妻があり、嫡男正綱は2歳で早世、四條畷の戦い前に宿った第2子があり、四條畷の戦い後実家に戻された夫人は池田城主池田教依に再嫁し、生まれた正行の子は教正と名付けられ、第2代池田城主になる。

この池田教正の末裔に、鳥取池田氏や備前池田氏が連なり、備前岡山藩52万石の池田輝政、光政は正行の末裔である。

そして、いわば楠氏の末裔として、今も各地に残る人々は、正行の弟、正義の末裔である。

正義の子どもは、これも系図によって異なるのだが、定説としては、正勝、正元、正秀、正平の4人があり、私の手元にも正義から今日に至るまでの、お預かりした系図が2つある。(1p楠木氏略譜は安藤英男著「南北朝の動乱」より転載)

四條畷楠正行の会インホームション

■ 第8回楠正行シンポジウムについて ■

3月7日(土)、総合センターで開催

日時&場所 3月7日(土)、総合センター1階展示ホール

内容 1部/正行絵本読み聞かせ

2部/谷口智則さんによる

ライブペインティング「楠正行」

申込 往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・返信用宛名・人数を記入のうえ、2月25日(当日消印有効)

までに投函ください。往復はがき1枚につき2名まで申し込み可能。ただし、子どもは2人以上でもok。

送り先・問い合わせ先

〒575-0052 四條畷市中野3-5-25 市立公民館

電話 072-879-3939

■ 楠正行に関する研究論文大募集! ■

最優秀賞に10万円と記念品

楠正行に関する問題提起・私論・伝承・史跡・感想等、どのような内容でも結構です。全国からの応募をお待ちしています。

この募集事業は、新たな発見と四條畷の全国発信他のために実施します。

論文 原稿用紙30枚まで

※切 5月31日必着

6月初旬 審査会(東四條畷市長・安本産経新聞編集委員・扇谷で構成)で審査のうえ、最優秀(10万円と記念品)、優秀(3万円と記念品)選考・結果発表

7月初旬 ブックレット「小楠公」創刊・論文掲載

応募方法

応募申請書と論文を下記にお送りください。

〒575-0021 四條畷市南野5-2-16

四條畷市立教育文化センター

電話&fax 072-878-0020

(注) 応募申請書は教育文化センターホームページからダウンロードするか、電話等で請求してください。

■ 楠正行ポスター展開催 ■

A1ポスター30枚、一挙公開

日時 3月2日(月)~3月8日(日)の1週間

場所 総合センター1階 コミュニティスペース

内容 電通大学生の作品30点一挙公開

■ 逆菊水家紋入り軒棧瓦、教文で展示 ■

小楠公墓・社務所屋根の瓦

楠正行通信第105号で既報の通り、小楠公墓所・社務所の鬼瓦や軒棧瓦に「逆菊水」(水流が右から左に流れる)の家紋が入っていることが分かりました。

昨年台風で落下した瓦のうち一枚を四條畷神社から寄贈を受けましたので、教育文化センターの正行資料室に展示しています。

近くに来られましたら、ぜひお立ち寄りください。

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)

